

# ジェシカの故郷 ミズーリ州オザーク地方

## What's True America!?

### “The Real America” Is Here!

あなたが想像するアメリカとはどんなものですか？  
マンハッタン？ハリウッド？それともラスベガス？  
そんなキラキラしたイメージはアメリカのごく一部。  
ごく普通の農村地帯のアメリカの姿をぜひ知って下さい。  
そこには古き良きアメリカ “The Real America”があります。

### ～Where is Missouri?～

ミズーリ州 (state of Missouri) は、北アメリカ大陸中西部に位置するミシシッピ川沿いの州です。  
南北方向の距離は北海道とほぼ同じですが、面積は北海道の二倍以上あります。  
ジェシカの故郷 Lohman cityは、ミズーリ州で最も有名な都市 Kansas City と St. Louis City の真ん中あたりに位置します。

ミズーリ州首都Jefferson Cityが、ジェシカの故郷から最も近い大都市。この地に定住した移民が持ち込んだカソリック文化が色濃く根付いています。  
同市の2010年度の人種構成は 白人78%、アフリカ系17%、ネイティブ・インディアン0.3%、アジア系1.8%、そして3%弱がその他となります。市全体として、宗教的人種的差別はあまりなく、わりあいオープンな雰囲気恵まれています。



# AMERICAN FARM FESTIVALS

アメリカの農村の  
楽しいお祭りをご紹介します

## Frog Leg Festival, Russellville, Missouri

ジェシカの地元最大のお祭りの様子です。男性はジーンズを穿いて、女性は手作りのペチコートスカートを着て踊ります。バンドの音楽に合わせて皆でスクエアダンス (Square Dance) を踊るそうです♪

他にも手作りのキルトを展示して売ったり、ミスコンがあったり、もちろん食べ物の屋台もたくさん!!ミスコンはアメリカならではの感じもしますね。また、のこぎり合戦 (丸太を早く切り落としたほうが勝ち) といった大会も開催されます。



↑手作り衣装は色もカラフル。気合入ってます。



↑切ったで〜!!!



←ちびっ子の  
ミスコンテスト

## Frog Leg とは

上のお祭りはその名の通り“食用カエルの足の揚げ物”をふるまうのがメインのお祭りです。

「カエル食べるの!？」なんて思わないでください。

あまり知られていませんが、ヨーロッパでは主にフランス、アメリカではテキサスやルイジアナが巨大な消費地です。日本以外の東南アジアでもカエルはよく料理に用いられています。

このお祭りの目玉はトラクターやレースカー、ゴーカートなど市内から集結して行うパレードだそうです。

↓カエルの足のフライ



↓たくさん並んだトラクター→



## Testicle Festival

もう1つ地元の大きなお祭りをご紹介します。こちらは牛の睾丸をから揚げにして食べるお祭りです。

海のないロッキー山脈で牡蠣の代用として食べられるようになったのがそもそもの始まり。他にもライブや絵画工芸品の販売、くじ引きなどカーニバル気分満載のお祭りです。入場料がかかりますが大人5ドル、12歳以下の子供は無料と、行って損はないかも!?

ウマツ!! (いや牛です)



↓牛の睾丸

から揚げ↓



# こんな事もしています!!

## Living Windows

Jefferson Cityで感謝祭からクリスマスにかけてのホリデーシーズン(11月～12月)に行われる人気行事です。繁華街のお店のショーウィンドウに**本物の人間**が入って、マネキンに扮してポーズをとり道行くお客さんたちを喜ばせるもの。お店ごとに無料の飲み物やスナックも振るまわれます。



## Drive-Your-Tractor-to-Your School Day

学校に行くときに**生徒がトラクターを運転**してくるという行事です。全米各地でやっているそうですが、ジェシカの通った学校ではキャンパスに到着した段階で**一番汚れた汚いトラクター**の持ち主が優勝でした。

一斉スタートで登校中。  
トラクターの渋滞が出来ます!



## River Boat Casino

川に浮かぶボート上ならカジノは合法。人気スポットで、ジェシカのママ、パパも実は。。。



## Mudding

ティーンエイジャー(10代)が好きな遊びの1つです。車を泥の中に突っ込んで運転して、**車体をめちゃくちゃ汚す**という子供心をくすぐる遊びです。



←汚している最中

## Crowfishing

日本でもよく見るザリガニ釣り。アメリカも同じですが、こちらは食べます。



←捕まえた♪



# ジェシカのふるさとの味

## カエルの足のフライ

ジェシカは子供の頃よくカエル取りに行きました。夜、片手にみつまた、片手に懐中電灯を持って水辺でひたすら待つ。カエルが飛び出してきたところを、みつまたでグサッと刺して捕えます。一晩でだいたい10~20匹。足の部分だけ食べますが、フライドチキンのような味です。



## コーンビーフとキャベツ

ジェシカの住んでいるミズーリ州だけでなく、アメリカの定番家庭料理といえます。コーンビーフ(1\*<sub>□</sub>~2\*<sub>□</sub>)をキャベツやジャガイモ、にんじんなどと大鍋でじっくり何時間もコトコトと煮込むだけのシンプルな料理。素材の味で勝負のアメリカ版おふくろの味です。



## 新鮮な野菜

野菜は農場から直行で青空マーケットへ出荷されます。日本のJAの様な仕組みです。アメリカ人=お肉大好き!!というイメージがあるかもしれませんが、野菜も大好きです。サラダにしたり、炒めたり、煮たり、揚げたり、日本の漬物のように保存食にしたりなど、あらゆる方法で野菜を食べます。



## 七面鳥(ターキー)料理

感謝祭やクリスマスなどの大切な行事の時に各家庭が腕をふるうのが七面鳥料理です。ジェシカの家では自分たちが七面鳥を仕留めてきて、内臓を取り出し身の中にサイの目に切ったパン、干しフルーツ、炒めた野菜などをあえたものを詰めてレンジで数時間焼きます。さらに付け合せは、さやいんげん、サツマイモ、マッシュルームをとり火で煮込んだ「キャセロール」という料理とロールパンです。デザートはカボチャやサツマイモをこしてクリームを混ぜたものが中に詰まっているパイです。



↑キャセロール

## ジェシカが好きなアメリカ料理

- \* Black-eyed peas 豆の一種。スープやサラダにして食べます。
- \* ポークステーキ
- \* シカの肉
- \* ビーツ(赤カブ)のジャム
- \* なす、ズッキーニ、カボチャのフライ
- \* 手作りアイスクリーム



## 因みに・・・

ジェシカの家ではハムもソーセージも手作りです。ソーセージは腸を皮に用い、挽いたお肉を詰めるところまで全工程を行います。またなぜか彼女の家では毎年2月14日にシカと豚の合い挽き肉でソーセージ作りをする習慣があります。ちょうど狩猟シーズンで新鮮なお肉が手に入る頃だからだそうです。彼氏へのプレゼントにはしませんでした。





### 午前4:00 起床

まずペットの種牛ジョージにミルクをあげます。学校に行く支度をしてから朝食。その後 鶏やあひるにえさをやります。

### 午前7:00 学校へ

家からバス停までは歩いて5分。バスはあちこちで子供たちを拾うので、子供が見当たらなければ、クラクションを鳴らして知らせてくれます。バスを逃したら、家の人に学校まで連れて行ってもらうことに。学校まで1時間。バスの中で宿題を済ませます。

学校のカフェテリアでは、1ドル30セントで朝食を、2ドル程で昼食が食べられます。ハンバーガー、スパゲッティー、サンドイッチやコーンドッグなどに、必ずサラダとフルーツがセットでつきます。

### 午後3:00 授業終了

放課後は陸上部の活動。4時半頃、街で働く両親のどちらかが仕事帰りにジェシカを迎えにきます。

### 午後5:00 帰宅～家事

ジョージにミルクをやったあと宿題。両親は畑仕事をするので、家畜の世話、庭仕事、納屋・家畜小屋の掃除など全てジェシカの仕事。冬には暖房用の薪割りも。加えて妹や、祖父母の面倒も見ます。

### 午後6:00 夕食や団欒

ママの作った夕食をとった後はテレビを見たり ゲームをしたり。テレビでは「セーラームーン」が大好きでした。

### 午後8:00 就寝

ジョージにもう一度ミルクをやってからベッドへ。両親も午後9時には寝ます。おやすみなさい。



## 高校時代のジェシカの日常

### バイト

ジェシカは子お小遣いかせぎのためにくるみ採り(walnut hunting)をやっていました。秋のシーズン中、だいたい3-4回は、くるみ採りをやって、合計1000ポンド(約450キロ)相当のくるみを集めます。これを売ると合計100ドル(1万円)程度のお金になりました。



敷地内の納屋などは、家族全員で建てます。



日曜日の朝は、家族で教会へお祈りに行きます。水曜の夜、子供たちは教会付属の学校へ行き、聖書について尼さんから教えを受けました。尼さんは大変厳しく、子供たちが暴れたり、尼さんの言うことを聞かなかったり、生意気なことを言ったりすると、持っている定規で、子供の両手を思い切り叩くという体罰がありました。

# Deer Hunting

ジェシカの暮すミズーリ州では、狩猟も生活の為に必要なことのひとつで、狩猟シーズンになると男の子は学校よりも狩猟を優先することさえあります。時期は年にもよりますが、9月中旬～1月中旬までです。



猟の時は何が起るかわからないので、いつも猟犬を連れて歩きます。

シーズンに鹿なら1-2頭をしとめ、食用にします。命をもらったことに感謝して食べ、どの部位も決して無駄にはしません。内臓も全て食べ、残部は猫用スナックにします。



庭でとれた野生の七面鳥。もちろん食用。



ライフルの練習

## ライフルとの向き合い方

ジェシカは、個人が銃を所有する権利を強固に主張している集団NRA (全米ライフル協会) のメンバーではありません。彼女にとって銃とは、あくまで狩猟するための道具であって、護身のために人を撃つものではありません。もしもジェシカが夜たった一人で家にいるとき、敷地内に不審者が侵入したとしても、ジェシカは猟銃を手にとる気はないと言いました。まず番犬が不審者を追い払ってくれるだろうし、番犬が激しく泣けば近所の人が気が付いて警察を呼んでくれるはずと信頼しているからです。第一、ジェシカは暗闇に向かって、撃つ対象がわからないまま銃の引き金を引くことはあまりにも危険だから、そのようなことは決してしないと確信しています。



### 鹿の処理

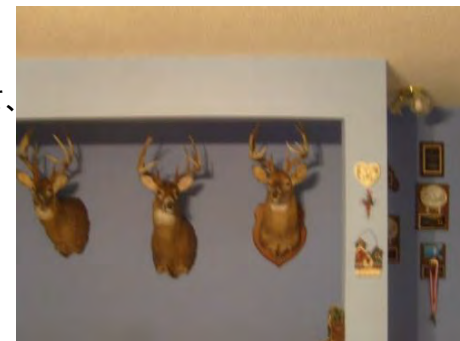
クレーンで首を吊って、腹部をさばきます。

### 鹿の皮

保温性が良いため、カーペットにしたり、飼い猫の布団にしたりします。

### 内臓

腸はソーセージの皮に使います。



居間に飾られたトロフィー・ヘッド

# ジェシカの家

ジェシカを家の総敷地面積は130エーカー(15万9000坪)。東京ドーム11杯分の広さです。ちょっと想像不可能。



←ジェシカを家の番犬。  
敷地内に住んでいる野生のコヨーテ、ポブキヤット(山猫)などを追い払う大切な役割をおっています。

車の修理中  
近くに修理工場が無いので、自分で修理をします。



ジェシカは12歳頃からトラクターの運転をしています。



納屋も自分たちで建てます。

# ジェシカ流お小遣い稼ぎ

日本では16歳以上がアルバイトをしてお小遣いを稼ぎます。ミズーリの田舎に住む若者たちは、山や河川で採集、釣り、狩猟をして得た食糧をマーケットで売ってお小遣いを稼ぎます。ジェシカはある秋、3-4回かけて総計500キロのくるみを採集し、それは100ドルくらいで売れました。

ジェシカを家の敷地内は飼猫や鶏、アヒルであふれています。あまりに多いので、1匹あたり50ドル程度で去勢手術をしています。これは飼主が勝手に行うことは禁止されていて、獣医のところ連れていかないとなりません。アヒルは「地面のゴミ拾い」をしてくれます。家にアヒルが多いのは、教師をやっているお兄さんの一人が、しょっちゅう有精卵をタダでもらってきてしまい、かえったヒナをそのまま育てているからだそうです。



←家で栽培したマスクメロン。この大きさに1個1ドル(100円)くらいの値段で売れます。

パンなどは買ってきますが、肉と野菜はほぼ自給しています。

# ジェシカの夢: 大学院で生物学を学び—生動物と関わる仕事につく事

## George

ジェシカが溺愛するペットエリート種牛のジョージ。日本留学中、一時も忘れたことはありませんでした。



ジョージは14歳の誕生日プレゼントとしてもらいました。

ジョージの好物はニンジン、コーン、りんご。



生後間もないジョージの値段は50ドル (5000円)。

現在は優秀な種牛として2000ドルから5000ドル(約20万—50万円)もの価値があります。

## 牧場の仲間たち



生後1日の子牛。



胃の検査をするときは、お腹の部分に穴をあけそこから検査器具を体内に押し込んで胃が消化の様子を直接観察することがあります。調査器具を取り外してしまえば、自然と穴はふさがります。牛はすごくタフな生き物です。



ジェシカは 牛の出産手伝いなどで家で覚えたので、今では逆子の出産手助けなどもできるし、牛の人工授精も1人でできます。